

9月 (定例)・臨時 教育委員会会議録

日 時	平成28年 9月 6日 (火) 午前10時00分から
場 所	山梨市役所 3階 応接室
出席委員名	市川今朝則・幡野勝彦・林正文・三森智文
出 席 事務局員名	小川鉄男、高原歳徳、倉田憲一
委員会書記	小林徹

議題及び議事の概要

○議事

(1) 夏季休業中における児童・生徒の指導等の状況について

市川教育長) 過日の校長会にて報告をもらった。笛川中学校の生徒がサッカーの試合中に骨折した事案が1件あった。ほかには特に問題なしとの報告であった。

幡野) 部活動中の保険の対応は(親子)安全会の対象となる?

小川課長) なります。

(2) 全国学力・学習状況調査結果について

市川教育長) 小学校はすべての教科で全国平均を下回っている。特に、A(基礎)科目を中心に下回っている。中学校は、おおむね全国平均を上回っている。正答数の分布グラフで見ると小学校は成績上位者が少なく、中学校は県・国と分布は同じくらいであるといえる。

基礎ができている児童・生徒を授業や家庭学習でさらに伸ばす工夫ができればと思い、校長会においても同様の話をさせていただいた。今回の結果を課題として次につなげていきたい。教育委員の皆様においてもご指導、ご助言をいただきたい。

学力調査と同時に行われた学習状況調査について県・全国平均と比較し、「良い傾向にある項目」が多い。この結果が学力へ結びつけばよいと思う。傾向としては真面目であるといえるかと思うが、家庭学習の時間が少ないと思う。携帯・スマホの使用時間は全国平均と比較すれば少ない。この調査は1つの側面ではあるが、改善すべき課題もあるのではないかと思う。

倉田指導主事) 家庭学習をする環境がなかった子も、中学生になりテストや周りの生徒との比較のなかで行うようになるのではないか。基礎力をつけることも大事であるし、成績上位者を伸ばすのも両方大切かと思う。

市川教育長) 進みが速い子に対しては、プリントなり、家庭学習での学習も含め考える必要があると思う。

幡野委員) 家庭学習の時間が少ないとのことで、増やす働きかけが必要と感じた。

林委員) 塾へどのくらい通っているかの調査はあるか。

倉田指導主事) 調査をおこなったので、結果は改めてお出ししたい。

市川教育長) 結果については各校で自校の分析をし、家庭にはリーフレットで市全体と

全国平均比較をポイントでお知らせする。自校の状況、分析は言葉での表現とし、その対策を配布する。

### (3) 管理職との懇談のまとめ

市川教育長) 7月に4日間をかけ、すべての校長・教頭先生と懇談をした。4月1日現在の児童数は1,777人、生徒数979人。特別支援学級在籍児童生徒数69人。今年度特に力を入れている取り組み(学力向上以外)は、あいさつ運動に関わるものが多かった。学力向上対策では、ほぼ全学校で、自学ノートを作っている。各学校からの要望としては、特別支援員の増員・学習支援員の配置が多かった。また、電子黒板の各階移動が大変なので各階に欲しい、との要望が多かった。

幡野委員) 特別支援学級在籍人数は各校で差があるようだが。

市川教育長) 普通学級を希望する親も多い。また、子どもの人数は減少傾向であるが、特別支援学級の人数はそれほどかわらないか、むしろ増える傾向かもしれない。増員等要求していかなければいけないと思う。

### (4) 学校給食センターの建設について

小川課長) (平面図により説明) まず中に入れる機械類を先に決め、厨房機器設計を行った。場所は旧果樹試験場跡地で敷地面積約7,000㎡、延べ床面積約2,500㎡。北側と西側に太陽光パネルを設置。7月下旬に建築設計業者が決まり、設計に入ったところ。総事業費は概ね21億円。学校給食衛生管理基準に則った安全な給食をつくることはもちろん、アレルギー調理室として独立した部屋を設け7大アレルギーに対応していく。また、食育推進の観点から調理工程見学可能な通路の設置、児童生徒のみならず、市民の皆様が生涯を通して健全な食生活を実践できる場として、栄養士を講師とした研修会等ができる50人程度収容ができる多目的ルームの設置も検討。災害時に応急的な対応ができるよう、1日5,000食、3日間のおにぎりや味噌汁を提供できるように。炊飯器についても災害時に強いガスを使用したものにしたい。米の備蓄を1.5トンしていきたい。炊飯室から直接搬出もできるような設計も考えている。

幡野委員) 現在は設計段階ということか。

小川課長) 今年度中に建築設計。平成29年から平成30年の頭にかけて建設。試運転の後、平成30年夏休み明けから稼働できるようにしたい。研修ルームは1部2階建て、調理工程はドライ方式。

幡野委員) 道路は神徳橋からくる道か

小川課長) 神徳橋から西に来たところ。6~7mに道路幅の拡幅を行う。

### (5) 小学校における教育課程特例校の延長申請について

市川教育長) 市の英語科教育については今朝、新聞で報道がされた。以前から小学校5・6年生の時間数については、現在35時間のところを、平成29年度50時間、平成30年度70時間としていきたい旨はお話しさせていただいていた。小学校3・4年生については現状20時間、平成29年度20時間、平成30年度35時間として申請。これは、平成32年度35時間になることを見越したもの。小学校1・2年生については15時間でそのまま。小学校3・4年生についてはふれていなかったもので、改めてお話

しさせていただきました。

幡野委員) 時間が増えるが授業時間の確保については

市川教育長) 6校時帯がない曜日を充てることになるかとも思う。

林委員) 学校独自で授業時間の確保を考えるのは難しいのでは。

市川教育長) そのような声も出てはいる。6校時の時間帯を使うのが一番理解を得やすいのではと考えている。

#### (6) 「携帯電話・スマートフォンおよびインターネット利用に関する調査」「生活・いじめアンケート」に関する報告

倉田指導主事) 6月を中心に学校で調査を行った。これに基づき各学校で対策・指導を行っており、同様の調査を再度10月・11月に行い再度指導していく。ほとんどの児童生徒がインターネットに接続できる環境にある。使用時間2～3時間が中心。動画・音楽・ゲーム・メール目的が多い。使用についてのルールは6割程度の家庭であると回答。ネット依存調査項目では小学校全体で7%、中学校全体で4%がネット依存と疑われる状況。

生活アンケート(小学校低学年(1～3年生))では、ほとんどの児童が楽しいと回答。仲の良い友達がいないと回答したのは0.9%。他、いやだなあと思ったことについての設問等。生活アンケート(小学校高学年(4～6年生))では、学校生活が楽しくない、あまり楽しくないが8%くらい。勉強・家庭が楽しいかとの設問でもほとんどの児童が楽しいと回答。高学年になると、LINEを通していやな思いをした等の回答が多くなってきている。いじめアンケート(中学生)では、5%がクラスにいじめがあると回答、2回目のアンケートで少なくなることを期待。いじめの内容はLINEで悪口を言われる等が多かった。いじめを受けたと答えた人で、誰かに相談しなかった人が18%おり、この生徒に気づき、声をかけられるかが大切になると思う。

幡野委員) 結果報告により特徴的な件に対する重点的な対応等を行うか

倉田指導主事) この結果に基づき、各学校において、生活指導の先生を中心に指導を行っている。2回目のアンケート実施後には、教育相談週間を設けて先生と話す機会を作る。

#### (7) 学校・園訪問の日程等について

市川教育長) 各学校の都合によりこちらで作成。11月21日から。市役所9時出発で市の車1台でまわりたい。校長懇談、授業参観、職員(先生)との懇談が入っている。4日間ですべての小・中・園をまわりたい。詳細は次回の教育委員会でお出ししたい。学校現場が準備等負担にならないよう、小回りのきく体制で行いたい。日程の確保をお願いしたい。学校側にはその時間帯にどのような授業を行っているかの一覧を作成してもらい、自由に見学できるようにしたい。給食については、委員さん方がそれぞれの教室で食べていただくことでどうか。

#### (8) その他

なし

次回 10月18日(火) 10時から

議決事項

その他、会議において必要と認めた事項